

(別紙5)

補助事業番号 28-1-016  
補助事業名 平成28年度自転車競技の普及促進及び競技力の向上に資する事業  
補助事業  
補助事業者名 一般財団法人 日本サイクルスポーツセンター

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

アジア地域におけるトレーニングセンターとして、アジア各国の将来有望なトラック競技者及びそのコーチの中から希望者を募り、国内外においてトレーニングキャンプを実施することにより、自転車競技の普及振興と競技力の向上を図る。

また、自転車競技大会では、トラック競技大会を開催し様々な年代・技量を持つ自転車愛好者にトラック競技の醍醐味を伝え、生涯スポーツとしての自転車利用の促進並びに自転車愛好者の底辺拡大を図る。

(2) 実施内容

アジアサイクリングセンターの運営

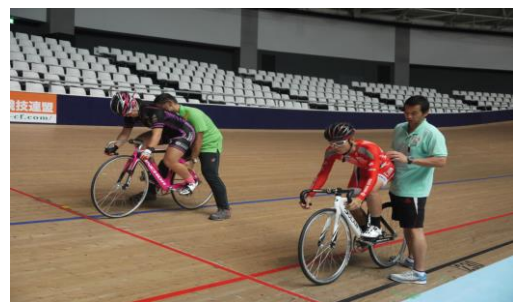
①国内トレーニングキャンプ

第1回トレーニングキャンプ； (<http://www.csc.or.jp/ccc/index.html>)

- ・期 間：平成28年6月24日から7月7日（14日間）
- ・参加人数：3カ国、選手9名・コーチ1名  
内訳（香港チャイナ：選手3名、タイ王国：選手2名・コーチ1名、  
日本：選手4名）



トレーニング説明



コーチによる選手へのフィードバック

- ・練習内容：今回のトレーニングキャンプについては、例年通り若い選手が集まった。海外からは全て17才とジュニアカテゴリーの選手たちであった。日本選手も15才と17才と同年代、またパラサイクリングの選手に関して

も、19才ではあったものの、自転車競技経験が約半年とまだ浅い者であった。そのため、体力、技術、メンタルともに、基礎的なトレーニングを心がけた。なぜなら、この時期に基本を重視したトレーニングを行うことにより、エリートに成長した時のパフォーマンスアップの向上率が大幅に期待できるからである。海外からの5選手については、引き続き伊豆ベロドロームで開催されたJTC(7月8日~10日)へ出場した。そのため、前半期には有酸素能力向上や筋肥大を狙ったポテンシャルトレーニング期、中日リカバリーを挟んで、後半筋出力能(神経系活性化)向上を狙ったパワートレーニングを実施した。

第2回トレーニングキャンプ；

- ・ 期 間：平成28年11月2日から11月15日(14日間)
- ・ 参加人数：4カ国、選手12名  
内訳(中国(上海)：選手2名、タイ王国：選手2名、日本：選手7名  
シンガポール：選手1名)



集合写真



訓練風景(周回訓練)



ウォーミングアップ



トレーニングのあとのストレッチ

- ・ 練習内容：今回の参加者は、最年長が26才であったものの、16才~18才のジュニアカテゴリーの選手が中心であった。日本人選手も1名を除き高校生であり、パラサイクリング選手2名もエリート選手ではあるが競技歴は浅いため、全員が同じトレーニングプログラムで基本的な走力を養

うトレーニングを行った。なお、パラサイクリング選手は全日、日本人選手は各自学校との調整を要し、入れ替わりでそれぞれ2日～6日間の参加となった。全12日間のトレーニングのうち、リカバリー1日を挟んだ前半5日間、後半6日間とした。前半は基礎的な体力の向上を目的とした低負荷でのキャパシティトレーニング、後半は筋出力能の向上を目的としたパワー系トレーニングを行った。また、前後半それぞれ1回ずつ、ウエイトレーニングを実施した。こちらも筋肥大を目的としたトレーニング、最大筋力の向上を目的としたトレーニングに分けて実施した。

②海外トレーニングキャンプ (<http://www.csc.or.jp/ccc/index.html>)

南・東南アジアの競技発展途上国を中心とするアジア全域におけるトラック競技の普及を目的にThai Cycling Associationの協力の下、CCC修善寺から指導員2名と事務局2名を派遣し、タイ王国・バンコクで海外トレーニングキャンプを開催した。また、引き続き同会場に於いてACCトラックアジアカップ2016タイラウンドに出場する機会を得、トレーニング効果を検証した。

- ・トレーニングキャンプ期間：平成28年9月26日から10月6日(10日間)  
ACCトラックアジアカップ2016タイラウンド開催期間  
平成28年10月7日から10月9日(3日間)

・開催地：タイ王国・バンコク ファマーク自転車競技場

・派遣スタッフ：4名

・参加人数：5カ国・選手16名・コーチ6名

内訳 チャイニーズタイペイ：選手4名、コーチ2名  
香港チャイナ：選手1名  
大韓民国：選手1名  
モンゴル国：選手6名、コーチ1名  
タイ王国：選手4名、コーチ3名



オープニングセレモニー



訓練説明

(別紙5)



ウォーミングアップ



競技場での集合写真

③CSCトラック競技大会(夏・秋2大会)

([http://www.csc.or.jp/event/track\\_kidsmasuter/index.html](http://www.csc.or.jp/event/track_kidsmasuter/index.html))

今年で12年目を迎え、競技会場も5年前より屋内板張り250m自転車競技場「伊豆ペロドローム」に移し、天候に左右されることなく毎年開催している。  
《CSCトラック自転車競技大会2016夏 KID'S マスターズ》

- ・開催日：平成28年7月30日・31日
- ・会場：伊豆ペロドローム
- ・参加人数：115人



表彰式



親子チームスプリント



オープン参加  
(リオパラリンピック代表)



集合写真

(別紙5)

《CSCトラック自転車競技大会2016秋》

・開催日：平成28年11月3日

・会場：伊豆ベロドローム

・参加人数：89人



ケイリン競走



親子チームスプリント



表彰式



集合写真

2 予想される事業実施効果

アジアサイクリングセンターの運営

[国内トレーニングキャンプ]

国内トレーニングキャンプの参加者は、今回においても年々増加傾向にあるジュニア・ユース世代の若い参加者であることから、基礎的なトレーニングに主眼を置き、将来性を考慮した長期的な育成ビジョンに基づくトレーニングを行うことにより、アジア地域における選手の競技力の向上並びにトラック競技の普及が図られ、世界レベルで活躍できる選手の輩出が期待できる。

[海外トレーニングキャンプ]

経済的な事情で国内キャンプには参加できない南・東南アジア地域の競技発展途上国において、トラック競技の普及と振興を図るには、必要不可欠なトレーニングキャンプであり、継続的に実施することによって、アジア地域の有望選手発掘及び育成にも繋がっていくと期待されている。

(別紙5)

自転車競技大会の開催

[トラック競技大会]

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の自転車トラック競技会場である「伊豆ベロドローム」を会場に自転車競技大会を開催することは、自転車競技に対する関心を高揚し、愛好者の競技力向上を図る絶好の機会となることから、今後も継続して大会を開催することで、自転車競技者の底辺拡大が図れるものと思料する。

3 本事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

国内トレーニングキャンプ

トレーニングマニュアル A4 1/0C ; 60枚

トラック競技大会

大会募集チラシ(夏大会) A4 1/0C ; 1,000枚

大会プログラム(夏大会) A4 1/0C 20P ; 150部

大会募集チラシ(秋大会) A4 1/0C ; 1,000枚

大会プログラム(秋大会) A4 1/0C 20P ; 130部

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

該当なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名: 一般財団法人 日本サイクルスポーツセンター

(フリガナ) イッパングアイタンホウジン ニッポン サイクル スポーツ センター

住所: 〒141-0021

東京都品川区上大崎3丁目3番1号

代表者: 会長 平柳 豊 (カイチョウ ヒラヤギ 1坊)

担当部署: 総務部総務課 (ソムブ ソムカ)

担当者名: 総務課長 土屋博良 (ソムカチョウ ツチヤ ヒロシ)

電話番号: 0558-79-0006

F A X: 0558-79-0908

E - m a i l: csczaimu@csc.or.jp

U R L: <http://www.csc.or.jp>